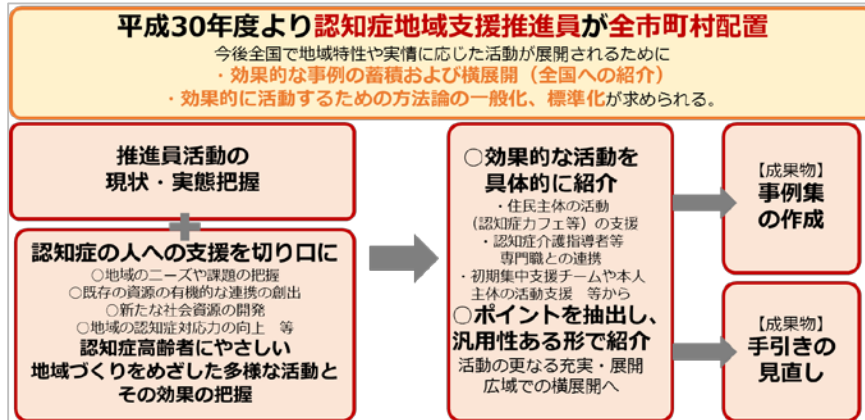


認知症地域支援推進員の活動の推進に関する調査研究事業

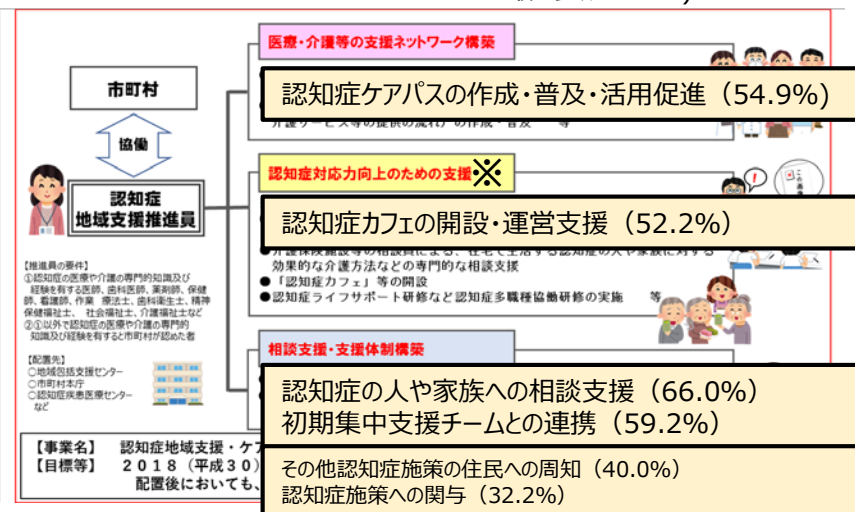
社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター

研究目的・内容



結果（推進員調査の一部）

Ⅱ-2. 厚労省の示す推進員の役割の中で市区町村から求められているものは？（「明確に求められている」の割合で最も多かったもの）



研究の概要

1. 全国調査

推進員調査・市区町村調査・都道府県調査

平成30年10月22日～12月20日、Web調査

→推進員配置と活動の実態把握

効果がみられた活動の事例記述

2. 事例集作成委員会→事例集の作成

全国調査における事例記述から、厚労省の示す推進員の役割・機能に沿って7テーマ（27事例）選出。委員会にて互いの事例やより良い事例集のあり方について検討し、執筆に役立てる。

3. 活動手引きの見直し

1及び2で得られた知見から、現行の手引きをより具体的に使いやすいものへと見直し、「2019年3月版」として発行。

Ⅳ-1. これまで取組んできた活動（かかわり方）



・ 推進員のやりがい

経験年数が長いほどやりがいが高い
2年目36.3%⇒7年目55.0%

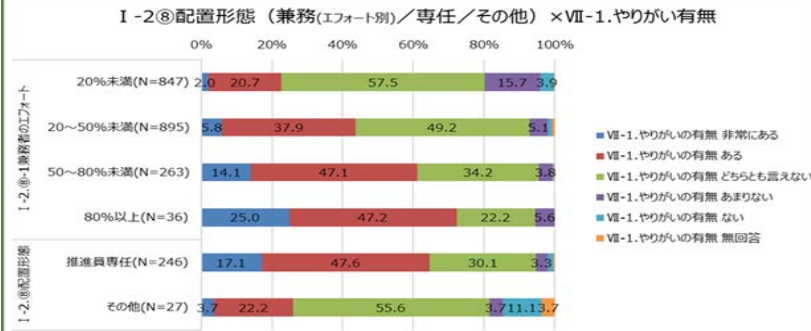
配置先によるやりがいの差はあまりない
行政44.4% 直営包括37.8% 委託包括40.1%
疾患医療C・社協40-50%

行政・所属組織・推進員同士のつながりがある人ほどやりがいを感じる

兼務より推進員専任のほうが高い
兼務37.6% 専任64.6%

兼務者でもエフォート高いほどやりがいを感じる
「20%未満」22.7% 「50-80%」61.2% 「80%以上」72.2%

「非常にある」6.7% + 「ある」33.5% = 40.2%
「どちらとも言えない」48.5% 行政直営の包括で、
推進員活動の比率が高いほどやりがいを感じているが、
委託包括や社協等、自職場の強みを活かした活動事例も多い。



・ 推進員活動のアプローチとその段階的な効果

地域づくりの効果 = **小さな変化・効果の積み重ね**

1

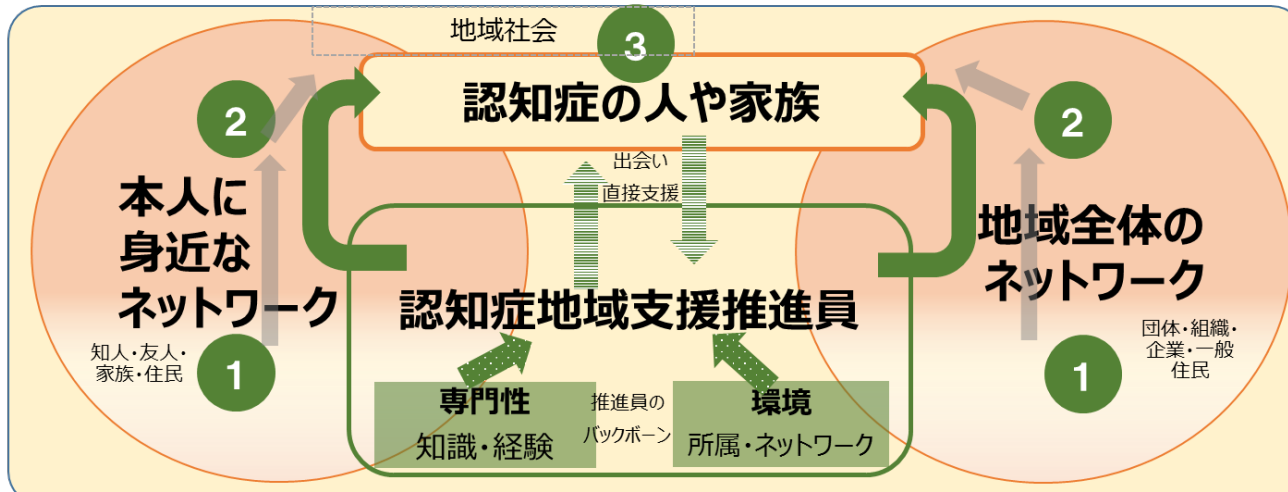
・本人の変化 ・関与者の拡大
・内容の充実 ・他地域での展開
知る・出会う機会の拡大・充実

2

・参加者、関与者どうしのつながり
・参加者、関与者の意識変化
関与者の内的充実・自発的發展

3

本人、家族の暮らしの充実
= 誰もが暮らし続けられる地域
個々の暮らしの充実



・ まとめ

○ 効果的な活動

= **小さな変化・効果の積み重ね**

- ・個々の活動に連動性をもたせてPDCAサイクルをまわす
- ・長期的、具体的な活動計画
- ・多様な目で評価

○ 本人と地域の強みに気づいてつなぐ

→推進員活動に活かす

○ 専任・兼務、直営包括・委託包括など、配置形態、配置先それぞれに強みがある

→まずは自組織の強みを振り返る

○ 推進員どうしの横のつながりも不可欠

→行政主導の連絡会や研修だけでなく、**推進員自身が実効性あるネットワークをつくる**

○ 行政との連携は不可欠

市区町村、都道府県にしかできないこと（強み）を生かして有機的連携を

・ 成果物

